

令和4年度大阪府大阪市病院連絡会結果（概要）

開催日時：①12月20日	北部基本保健医療圏	場所：福島区民センター
②12月14日	西部基本保健医療圏	場所：福島区役所
③12月23日	東部基本保健医療圏	場所：西成区民センター
④12月16日	南部基本保健医療圏	場所：東住吉区民センター

出席病院：別添一覧

1 地域医療構想の推進に関する意見

【病床機能の報告基準について】

- 府の報告基準では、看護師数が多く配置されており、手術数・救急医療加算数の多い病棟は高度急性期に分類されるが、臨床現場の実態としては、ICU、HCUが高度急性期、それ以外の手術・救急などの病棟は急性期と考える。
- 実際に高度急性期の医療を提供している医療機関を高度急性期に分類とするためにはやむを得ないのかもしれないが、高度急性期のハードルが低いのではないかと考える。そのあたり基準を作成する難しさがある。
- コロナ禍で通常とは異なる診療体制・人員体制での診療となっているため、府の報告基準では本来の診療内容とは異なる分類になってしまう。

【回復期病床の転換にかかる課題】

- 府の想定する回復期機能と現場のイメージする回復期機能が一致していない。
- 回復期リハビリテーション病床はすでに充足している。回復期機能において、回復期（地域）と回復期（リハ）は区別して、議論する必要がある。
- 地域包括ケア病棟の病床稼働率は低いため、回復期病床を増やすことより、地域の実情に合わせ、現時点である回復期病床を有効活用する方が重要である。
- 回復期病床を増やすことよりも、他院からの紹介など医療機能の連携強化を図る方がよい。
- 臨床現場では、今後、高齢者救急の受入増加が予想され、急性期病床が必要と感じるが、さらなる回復期病床の必要性は感じない。

2 病院の将来プランに対し意見のあった病院とその回答

（1） 公立・公的病院

- 特になし

(2) その他、民間病院等

●医誠会病院・城東中央病院：

(病院への意見)

- ・過剰な病床である高度急性期・急性期病床への転換計画にもかかわらず、説明が不十分であり、納得できない。
- ・過剰な病床である高度急性期・急性期病床を増やす計画となっているが、方針を転換する予定はないのか。

(病院の回答)

- ・統合後の新病院では診療科を増設すること、また、広域での医療を展開することから、現在より多くの急性期病床が必要であると考えている。

出席状況等一覧

(別紙)

保健所名	公立・公的・民間等	対象病院数 (A)	出席病院数 (B)	参加率 (B)/(A)	病院連絡会欠席病院	病院プラン		病院プラン未提出病院
						提出病院数 (C)	提出率 (C)/(A)	
北部基本保健医療圏	公立	2	2	100.0%	真心会病院、城北みどりヶ丘病院、淀川若葉会病院、大阪治験病院	2	100.0%	
	公的	5	5	100.0%		4	80.0%	
	民間等	30	26	86.7%		31	103.3%	
	合計	37	33	89.2%		37	100.0%	
西部基本保健医療圏	公立	0	0	-	大場内科病院、大阪労働衛生センター第一病院、西淀病院、苗加病院	0	-	
	公的	5	5	100.0%		5	100.0%	
	民間等	22	18	81.8%		22	100.0%	
	合計	27	23	85.2%		27	100.0%	
東部基本保健医療圏	公立	1	1	100.0%	生野愛和病院、生野病院、啓生病院、優心会厚生病院、関目病院、城東病院、西下胃腸病院、早石病院、内藤病院、西眼科病院、朋愛病院、飯島病院、原田病院	1	100.0%	
	公的	5	5	100.0%		5	100.0%	
	民間等	57	44	77.2%		57	100.0%	
	合計	63	50	79.4%		63	100.0%	
南部基本保健医療圏	公立	1	1	100.0%	奥野病院、浦上病院、愛壽記念病院、渡辺病院、西中病院、淀井病院、共立病院、平野若葉会病院、松本病院	1	100.0%	
	公的	2	2	100.0%		2	100.0%	
	民間等	43	34	79.1%		43	100.0%	
	合計	46	37	80.4%		46	100.0%	
合計	公立	4	4	100.0%		4	100.0%	
	公的	17	17	100.0%		16	94.1%	
	民間等	152	122	80.3%		153	100.7%	
	合計	173	143	82.7%		173	100.0%	